

II. 実践研究の報告

5. きらら保育園（神奈川県 横浜市）

1. 研究代表者

園長 森田倫代

2. 保育園の所在地

神奈川県横浜市金沢区能見台東 2-3

3. 定員数・入所児童数

定員 90人

入所児童数 106人

4. 保育園の紹介

きらら保育園は、社会福祉法人みどり会の2つ目の保育園として平成12年4月、横浜市の緊急保育計画により金沢区能見台の地に開園しました。

当園のクラス編成は、年齢別に加えて縦割りグループを取り入れ、日々の生活の中で年下の子を労ったり、年上の子を模倣したりと、異年齢の子ども達が互いに育ち合っていく事ができるように工夫しています。核家族化や地域の繋がり希薄化により、子ども達の集団が身近に出来にくくなっている今、年齢の縦割り保育には大きな意味があると思っています。当園では保育にモンテッソーリ教育を取り入れながら、子ども自らが様々な活動に取り組めるよう環境を整え、子どもが「自立・自律」していくための援助に取り組んでいます。

保育事業としては、延長保育、一時保育の他に、障害児保育、病後児保育（病後児保育室を併設）を行っています。また、地域の方々との交流を通して「きらら」をコミュニティの新たな「場」としても提供できるよう、保育相談や育児教室などを行っています。そして、木のぬくもり・太陽の暖かな光があふれる園舎で、子ども達が「明日もきららで、あんなこと、こんなことやりたい！」と感じる保育園づくりに日々取り組んでいます。

5. 延長保育・一時保育を始めた動機

まず、延長保育を始めることになった理由は、開園当初から特別保育のメニューの中で延長保育は朝7時から夜8時までという市からの要望があったからです。

それに対し、一時保育は当初、市からの要請はありませんでした。しかし、就労形態の多様化や現在の子育て環境の問題からくる一時保育へのニーズは、厚木のみどり保育園での経験から感じており、機会があれば行いたいと考えていました。園舎の図面を提出する際、延長保育で使おうと考えていた部屋の名前がなかったので「一時保育室」と記載しておいたところ、一時保育事業が市の指定園でなくても出来るようになったことと重なって補助金を出していただけるようになり、開園当初から一時保育ができるようになりました。

研究の目的・概要

保育等子育て支援サービスの充実を掲げた新エンゼルプランが進捗し、今日の保育所は様々なニーズに応えるべく、保育サービスの充実に努めてきました。当園でも、保護者の声に耳を傾け、少しでも多くのお父さん・お母さんの力になればという一心で延長保育・一時保育に取り組んできました。実施当初は延長・一時保育を軌道に乗せるのに精一杯でしたが、5年たった今、よりよいサービス・質の向上へ目を向ける時期がきたのだと思います。現在の延長・一時保育が抱える問題点・課題を整理・考察し、よりよい延長・一時保育も目指すことが今回の研究の目的です。

研究スタッフ

園長：森田 倫代

副園長：森田雅貴 主任保育士：溝脇しのぶ

保育士：新井深由希 松本円香 若月ゆう子 白岩愛子 角谷麻衣子

看護師：中丸美有紀

研究の方法・研究会議の状況等

今回の研究に当たっては、今まで実施してきた延長保育、一時保育についての反省点・問題点・課題を、各担当者から整理してまとめてもらい、改善点を検討し合い、実践に反映するようにしました。また、保護者の方にもアンケートを行い、その結果を踏まえて考察してみました。

1. 延長保育：研究目的

就労形態の多様化により、延長保育は保育所に欠くことの出来ないものとなってきました。私たち自身、働きながら子育てをすることの難しさを実感しており、延長保育の必要性は強く感じていました。それと同時に働きながら子育てに奮闘している保護者の方々の力に少しでもなれたら、という一心で延長保育に取り組んできました。その結果、確かに延長保育を利用することによって親は安心して仕事をし、負担も軽くなったかもしれません。しかし、子どもの様子はどうでしょうか。大人の生活リズムに合わせられ、困っているのではないのでしょうか。子育ては親子ともどもが主役なのだと思いますが、ポイントは育てられる側の子ども達に置かれるべきでしょう。大人ペースの生活に子どもが合わせている現状に、私たちは違和感を感じ始めました。

そこで、親からみた延長保育が、子どもの生活にどのように位置付けられているのかをアンケートによって明らかにし、子どものペースを乱さないために延長保育ではどのような配慮をすべきかを検討し、実践に反映させていくことを研究の目的とします。

2. 一時保育：研究目的

近年、深刻な少子化・核家族化・地域のコミュニケーションの希薄化が、社

会の大きな問題として取り上げられています。そして、それらが子育て環境に大きな影響を及ぼしていることは言うまでもありません。私たちの園では、一時保育以外に、育児教室（きららっこクラブ）にも取り組んでおり、普段保育所にあまり関わりを持たないお父さん・お母さん方と接してきました。そこで感じたことは、ここまで子育てというものが親にとって困難になっているのかということです。子どもとどんな遊びをしたらよいのか分からない、私の子はちゃんと成長しているのか分からない、子どもにどう接したらよいのか分からない等、子どもと向き合う事への難しさ。さらに、病気をしても預ける人がいない、子育てから離れてパートに出たい等、現代の子育てを巡る問題には本当に様々なものがあります。しかし、理由はどうあれ、親にとっては重大な問題であり、そこに保育所が手を差し伸べることが救いになるのであれば、という思いで一時保育に取り組んでみました。

そこで、一時的にせよ保育所を利用することが親にとってどんなことであるのか、保育所の存在がどういったものなのか、アンケート調査から課題を整理し、よりよい一時保育に活かしていくことを研究の目的とします。

3. 子育てに関するアンケート結果と考察

当園での子育てに関するアンケート結果を考察し、延長・一時保育の実践研究の結果もふまえ、よりよいサービス・質の向上への今後の課題を見いだしていきたいと思います。

1. 延長保育

ア. 研究の実施状況

延長保育を実施するに当たって、一番に考えたのは一日のほとんどを保育所で過ごす子ども達にとって「居心地の良い、過ごしやすい場」にしようということでした。そのために設計家の方をお願いして、園舎の中にもう一つさらに「小さなお家」を作っていただきました。保育園の玄関ホールを入ったすぐ横に、小さな屋根があります。その下の扉を開けると中に8畳の和室と洋室、そしてキッチンがあります。

そんな「小さなお家」が延長保育室になっています。この部屋は延長保育時間以外の日中には、一時保育の部屋としても利用しています。

延長保育は夜7時までと夜8時までの2パターンに分かれており、7時までの子ども達はおやつを、8時までの子ども達は軽食を食べています。おやつや軽食の申し込みは、朝の当園時に延長保育申込書にお迎え時間と共に記入します。そしてその人数を元に調理員が延長保育室のキッチンで作っています。7時まで残る子ども達が食べるおやつは、お家に帰ってからの食事に響かない程度の、クッキーやおせんべい等のお菓子と飲み物です。また、軽食はうどんやピラフ・丼ものなど、栄養士作成の献立に基づき調理していま

す。夕方 6 時 30 分に長時間保育が終わり、リュックを背負った子ども達が次々と延長保育室へとやってきます。すると「ああ、いい匂い!」「今日のご飯は親子丼かなあ!」などの声が聞こえてきます。まるで、自分のお家に帰ってきたかのようにリラックスしています。

荷物を置いてから畳の部屋でブロックをしたり、おままごとをしたり絵本を読んだり、保育士と手遊びをしたり、思い思いにお迎えまでの時間を過ごします。しかし、このような保育の流れになるまでには、今まで様々な問題が生じ、その度に改善を重ねてきました。そこで、これまで工夫してきたことを少しご紹介したいと思います。

このような工夫を重ねながら延長保育に取り組んできました。しかし、今また新たな疑問にぶつかってしまいました。それは、

- ・お母さんがお迎えに来て、なかなか遊びに区切りをつけられない。
- ・ご飯を食べ始めるちょうど 7 時頃にお迎えに来て、食べ終わるまでずっと待っている。
- ・お迎えにきた親が延長保育室に入り、ご飯を食べさせたり、一緒に遊んだり、30 分以上を保育室で過ごす。
- ・お迎えの親が延長保育室に入ってくる事によって、まだ迎えの来ていない子が泣き出す、甘え出す。(特に乳児)
- ・保育室を出てからもすぐに帰ることができず、延々と絵本コーナーなどにいる。

などです。延長保育を利用する子ども達の中には朝 7 時すぎから夜 8 時までの 13 時間を保育園で過ごす子どももいます。実に一日の半分以上を保育園で過ごしているのです。当然延長保育になる時間には、既に十分疲れているのです。その上、なかなか帰宅しなければ、お家で過ごす時間はますます減ってしまいます。これでは、親の就労支援の為や子どもにも過ごしやすい環境を作ろうと取り組んできた延長保育が、かえって子どもを困らせていることになってしまうでしょう。「子どもが遊びたがっているから」「迎えが遅くなった分、少しでも多く遊んであげたいから」など、理由はあると思いますが、夜までお家以外の場所で過ごしている子ども達は、その疲れを持ち越して次の日も保育園で過ごさなければなりません。帰宅時間が遅くなればその分就寝時間に食い込みます。就寝が遅くなれば、翌朝、スムーズに起きられないのは当然です。子どもの体力と大人の体力が全く違っている事が分かっているにもかかわらず、ついつい忘れがちになってはいないでしょうか。大人の生活に子どもの生活を合わせるのではなく、子どもの生活に親が合わせ、親が子どもの生活リズムを意識的に作ってあげることが大切なのだと思います。

そこで、私たちは、お迎えの際に親は延長保育室に入らないよう協力を求

め、子どもが食事や遊びを終えたら、速やかにさようならの挨拶をして部屋を出ることにしました。

実践

<ねらい>

- ・スムーズに帰宅する
- ・子どもの生活リズムを乱さない

<方法>

子どもが延長保育室から出てくるまでエントランス等でお待ち頂くよう協力を求める。また、できるだけ登園時に記入した予定時刻に合わせてお迎えにきて頂く。保育士はお迎え時刻を確認し、保護者がお迎えに来たことを確認してから子どもに帰り支度をするよう促し、お支度ができたらさようならの挨拶をする。

<事例：お迎え予定時刻が7時30分の三歳女兒>

<考察>

この事例にあった女兒は、日頃から延長保育を利用していました。まだ二歳児クラスの子ということもあり、延長保育の時間にもなると疲れているせいか泣き出す・甘えるが多くなってしまいます。食事や遊びもなかなか自分で区切りをつけることができず、だらだらと過ごしてしまうことがよくありました。他児がお迎えにきているのをみると「〇〇ちゃんのパパとママは？」と言っては寂しい顔をしていました。しかし、いざ自分のお迎えが来るとお部屋の中で甘えてしまい、更に区切りをつけられなくなっていた様子でした。

しかし、この実践を始めてからは、まだ多少時間はかかるものの、帰りの際、スムーズにさようならが出来るとなりました。

親が部屋に入ってしまうと、どうしてもそこで甘えてしまうことが多いようです。つい親子で保育園に長居をしてしまう方も少なくありません。そこで、保育士がスムーズに帰宅できるような配慮、声かけを行っていくことは、子どもの生活リズムを作る上でのきっかけになるのではないかと思います。

私たちの保育園では延長保育に限らず、登園時・降園時のお別れをスムーズに出来るように心掛けています。降園時にどうしても相談したいことがある場合には、子どもに会う前に、事務室に寄ってもらうようにしています。

まずは、毎日一分でも早めに生活リズムを整えていくことが、よりよい生活への第一歩ではないかと思います。

イ. 保護者・地域社会等の反応・評価

延長保育を利用している園児の保護者の層は、両親とも常勤職員という人がほとんどです。また、遠距離通勤をしている方も多数います。その為、6時30分までのお迎えでは間に合わない人が多く、延長保育があるのでこの

保育園を選んだという人もいるほどです。毎日利用している人は数名で、他の方は勤務の都合で時々利用するという使い方です。この制度があるので母親の就労が確保できている方も多いようです。

しかし、中には延長保育がある保育園に通っているために、育児短時間勤務の制度があるにも関わらず、職場で無理を言われることがあるという話をされる方もいます。

アンケートの自由記述には他にも種々意見がありました。

・とても満足しています。本人も毎日楽しそうですし、お友達も沢山できて我が家において子育てするよりも、多くの事を学べて子どもが生き生きしているように思っています。

・入園時からずっと利用しています。部屋の間取りや雰囲気が家庭的で、保育者の方々も子ども達を暖かく見守っていただけているので安心です。我が子は恵まれています。が、必ずしもそうでないと聞いたことがあり、子どもが一番心細い思いをされると思われる延長保育については、特段の配慮をいただきたいと考えます。

・仕事を続けていく上で欠かせないものとなっています。有り難いです。(営業職のため残業等も突発的に発生する。また近隣には親戚もなく引っ越してきて一年少々のため誰かに預かってもらうということが難しいので)ただ、通常とは違って年齢の異なる子ども達と保育されるため良い面もあるのですが、目が届いているのだろうかと思うこともあります。が、いつも延長したときも楽しそうにしているので安心してしています。

・働く時間が長くなることより、働くことも休めることも自由に選択が出来る社会の理解が欲しいです。

・延長保育をして頂ける園が増え大変助かっています。その反面企業は延長保育があるのだから残業を毎日のようにしてくれと言わんばかりです。子どもが健全に育つためには家族と過ごす時間が必ずほしいと思います。就労時間に上限があるように、子どもの保育時間にも週ごと、月ごとの制限が必要ではないかと考えます。公共のところから指針のようなものが出されると有り難いです。基本的に延長保育はシフト勤務の方が利用し、健全な子育ての出来る社会になりたいものです。

・フルタイム出勤なので延長保育は大変助かっています。が、子どもにとっては負担が大きいのも事実です。でもきらら保育園では延長保育でも楽しく過ごさせていただいているようで、保育園へ行くのは大好きです。延長・長時間保育は親の通勤時間や残業など、働いていく上で生じる仕方がないので大変有り難いサポートだと思います。

・子どもにとっては通常時間での迎えが理想かもしれないが、たとえ延長

保育を利用しても生活リズムが整い、家庭で密度の高い時間を過ごすことが大切かと思う。

- ・当然の事ながら、延長の時に担任の先生と会うことが出来ず、ちょっと不安になることもあります。

- ・土曜日の保育時間（現行 5 時）の延長や、将来的には休日の保育など・・・夢のような話しですが・・・。（注：休日保育はセンター方式で他園で利用できるようになりました。）

- ・親が保育園で充実した延長保育に慣れていると小学生に上がったときに福祉の欠如があるためギャップに苦しむことになるので一長一短である。

ウ. 職員の体制・協力

常勤保育士 1 名が交代で 11 時 30 分～20 時、非常勤職員 1 名が毎日 11 時 30 分～20 時、非常勤職員 1 名が毎日 7 時～10 時、16 時～20 時の勤務をしています。その 3 名が 6 時 30 分から延長保育の担当となります。

また、非常勤の調理員が 2 名交代で 6 時 30 分までにおやつ、夕食の準備のため、勤務しています。

その日により人数が多かったり、0 歳児が多い場合は 6 時 30 分までの勤務の職員が超過勤務をして対応しています。

エ. 担当職員（保育士等）の意見

担当者からは、次のような意見がありました。

- ・利用する子ども達は大体決まっており、また、非常勤は固定で毎日同じ職員のため落ち着いて過ごすことができている。

- ・0 歳から年長まで一緒の部屋にるので、より年齢幅のある縦割りの関係ができる。

- ・常勤が交代制により日替わりで携わるため、延長保育の状況を皆で理解、共有する機会となる。また、通常の時間ではなかなか会えない保護者と会うことができる。

- ・人数が 10 名前後（多いときは 20 名近いが）なので、食事が終わった後、ゆっくり遊ぶことができる。

- ・園を閉じる夜 8 時を過ぎても、連絡なく遅くなる親には困っている。確信的なところもあるが、相手の立場、こちらの立場を話し合っ理解し合う努力をしている。

オ. 保護者アンケート（延長保育関連）の集計と分析・考察

園独自のアンケートを作成し、集計は「子育てに関するアンケート」とともに別途巻末にまとめました。

延長保育を利用している保護者を対象に行いました。アンケートから、親からみた延長保育がどのように位置付けられているか、延長保育を利用する

上で工夫していることなどを聞き、分析してみました。

延長保育・アンケートのまとめ

<問 1> 通常の保育で帰宅した日と、延長保育で帰宅した日のお家での時間の過ごし方

多数の人が、就寝時間を一定にするように心掛けているようですが、通常保育で帰宅した日の方が就寝時間までの時間をゆったり過ごしているようです。帰宅する時間が遅くなっても就寝時間を合わせる為には、入浴時間を短縮したりしているようです。

<問 2> 延長保育から帰ってきた子どもの様子

機嫌良く順調に過ごせている子が半数いたのに対し、残りの半数はやはり疲れている・甘えるといったものでした。延長保育で遊ぶのは楽しんでいても、体力的には疲れているのが現状のようです。

<問 3>延長保育を行っている時、生活リズムを考え工夫していることは半数以上の方が、子どもを寝かせてから家事をしたり、朝早起きして家事をしていたり、子どもの生活リズムを乱さないように工夫しているようです。そのうえに休日を利用して買い物を済ませておいたり、いくつかの工夫を重ねているようです。

また、「家事を“手伝ってもらう”のではなく、“分担する”。家事は母親だけの仕事ではない」という声も聞こえました。働きながら子育てをしていく上で、父親・母親が協力し合っていくことは不可欠です。父親・母親ともども、働きながら子育てをしているという同じ立場なのです。お互いに来ることを“分担”していくことは、子どもだけにとどまらず、親にとっても生活に無理な負担がかからないことだと思います。ちょっとした言葉の違いかも知れませんが、協力をするという意識の高さの表れではないでしょうか。

<問 4>延長保育で軽食を食べてきたときの夕食はどのようにしていますか
半数以上の方が、量にばらつきはあるにせよ“両親との食事”の時間をとっているようです。デザートと一緒に食べるというのが半数近くありました。

お父さん・お母さんと一緒に食卓に並び、会話をする時間はやはり大切だと思います。しかし、子どもにとっては二度目の夕食の時間です。その後の生活が子どもの就寝時間に食い込んでしまわないように時間配分には気を付けてほしいと思います。

<問 5>延長保育を利用しているのはどんなときですか

約60%が残業のために延長保育を利用しているようです。中には「延長保育があるのだから残業をさせられる」といった声も聞かれます。延長保

育は決して、“どうぞ仕事を増やして下さい”といったものではありません。今ある現状を少しでも手助けするために保育時間を延長しているのです。

企業からしてみれば、子どもを長く預かってもらえれば、もっと仕事ができるということなのかもしれませんが……。企業社会の中では、子育てに対する意識の違いはまだまだ大きいようです。企業も子どもを育む環境の一つであるということと、次世代の社会を担っていくのは現在の子ども達であることを社会全体で再認識して欲しいものです。

<問6>延長保育を利用しなくても良い日に、子どもの要望で利用したことがありますか

約8割の人が“いいえ”だったのに対し、2割ほどの人が「おやつが食べたい」などといったような理由で利用してしまったことがあるようです。

これまで子育ては家族内で行ってきました。しかし、時代と共に家族形態や社会も変化し、保育所などの第三者が子育てに介入するようになりました。そして、保育所は時代のニーズに応え、保育サービスの充実に努めてきました。しかし、これらの保育サービスは子育てを“手助け・支援”するものであり、子育てを“肩代わり”するものではないのです。子どもが帰るところは家庭です。子どもが本来あるべきところが家庭であるということは今一度、再認識しなければいけない時が来ているのかもしれない。

<問7>延長保育を利用することによる子どもへの影響

やはり子どもが長時間保育所にいるということは、子どもに負担をかけていると感じているようです。しかし、それと同数で「安心して子どもを預ける事が出来る」という意見があるのも事実です。“安心して”といった言葉には「子どもも楽しそうに過ごしている、信頼しているスタッフが預かってくれるので安心」という思いがあるようです。その時は楽しく過ごせているようでも、目には見えない疲労がたまっているのではないのでしょうか。子どもに何らかの負担をかけているのかもしれないということを気にしていながらも、仕事の都合などから、その日その日を過ごしてしまうことが多いようです。

<問8>子どもの気持ちを支えるために工夫していることは

- ・子どものやりたい遊びにじっくりと（少しの時間だが）密度濃く付き合う。
- ・眠るまで家のことはあまりしないでそばにいて一緒に遊ぶ。
- ・休みの日一緒に出かけたりゆったりとした時間を過ごしている。
- ・出来るだけ子どもと一緒に（関わる）ようにする。
- ・父が深夜帰宅のため、なるべく朝にコミュニケーションをとる。

などといったように、限られた時間をそれぞれ工夫しているようです。

しかし、約 1 割の人が“工夫している余裕がない”と答えています。やはり、保育所のサービスだけでは、全ての家庭に対して支援を充実させることは困難のようです。先にも述べたように、子育ては社会全体で行うものです。よりよい子育て環境を作るために企業側にも子育てへの関心を高めて欲しいと願うばかりです。

<問 9>両親にとって延長保育の存在は

大多数の方が、延長保育があることに「安心できる・必要である」と答えています。仕事をしていく上では、いつ残業があったり、緊急事態があるのかは分かりません。“いざ”というときに頼れるサービスがあることに大きな安心を得ているようです。

<問 10>親から見た子どもにとっての延長保育は

保育園でお友達と遊んでいたりと、普段遊べないおもちゃで遊べるという面では、子どもは楽しく延長保育を過ごしていると感じているようです。しかし「迎えに来るまでは仕方がない・早く帰りたい」と感じている人も同数います。ここから言えることは、延長保育に対する意識・認識の差が生じているということです。子どもが楽しんでさえいればそれが一番良いとは限りません。子どもが“楽しい”と感じていられる為にも生活のリズムを整えてあげることが必要なのだと考えます。長時間保育では少なくとも子どもに負担がかかっているのだ、ということを忘れずにいてほしいと思います。

2. 一時保育

ア. 研究の実施状況

きらら保育園では開園当初から一時保育を行ってきました。夕方から夜に延長保育室として利用している部屋を昼間、一時保育室として利用しています。もともと延長保育室として作ったつもりの部屋でしたので、通常の保育室とは違ってロッカーや広い空間がありません。ただ家庭に近い雰囲気のポイントを置いた部屋なのです。ですから、子ども達の荷物を置くスペースがなかったり、教具を置く場所に困ったり、トイレが少し離れていたり、昼間の保育には不便さを感じていました。

そこで私たちは、いくつかの工夫をしながら保育室をより使いやすく、子ども達が安心して過ごせるような環境作りをしてきました。また、長年に亘り保育の研究と実践に携わっておられる國岡先生をお招きし、保育と保育室の環境設定について 研修と話し合いを行った上でいくつか改善を行いました。

一時保育で難しいことの一つに、日々のクラス編成が流動的であるとい

うことがあります。低年齢児が多いクラス編成になってしまうと、そちらに手がとられてしまい、全体に目を行き届かせることがなかなか難しくなってしまいます。高年齢児が多くなると、一時保育の部屋では力を持て余してしまいかねません。園外へのお散歩は、年齢によって行くことができる日もあれば行くことができない日もあります。園庭では体を使った活動に心掛けています。

イ. 保護者・地域社会等の反応・評価

一時保育は非定型、緊急、リフレッシュと利用する方のニーズにより反応や評価も変わってきます。横浜市の中でも金沢区は今年度の待機児童が最高ということですので。そのため、非定型の方は本来は通常のクラスに入りたいという方も多いようです。ご家族の介護で毎日には必要でないが継続的に使っていたりしていただいております。そして、リフレッシュもなかなか予約が取れませんが、上手に使っていただいているようで母親と子ども両者のリフレッシュになっているようです。

やはり、地域的に一時保育の受け入れ人数がもっと多くなり、利用しやすくして欲しいという意見が多いようです。現在、公立保育園でも一時保育を検討していますので来年度からは増えてくるのではないかと思います。

アンケートの自由記述には次のような意見がありました。

・横浜市では母親の出産前後 8 週間程度は子どもを保育園に預けることができるとなっていますが、私は当時 2 歳の子どもの空きがないという理由で預けることができませんでした。このシステムがもう少し充実していただくと、2 人目・3 人目の出産にもっと前向きになれる人も増えるのではないかと思います。

・通常保育に何年も入れないでいるので、一時保育というものがあるということにととても感謝しています。家の場合は一時保育でありながら幼児クラスで受け入れて頂いて、そういった配慮にも有り難く思っています。来年度は入れるのか心配していますが・・・。

・様々な働き方をする人がいるので（特に女性は）その必要に柔軟に答えて下さる存在でとても有り難いです。一時保育を手がける保育園がもっと増えてほしいです。

・転居後、周囲のサポートなかなか得られない環境での一時保育の利用は心の支えとなっています。本当に困ったときに近所に利用できる保育園があることは何よりありがたいことと思っています。

・子育てサポートシステムの利用も考えましたが、保育園は専門家に見てもらっているという安心感が違います。子どもにとって、一時保育とはいえ、一クラスの集団の中で学ぶものは多く、また、私にとっても先生方の子ども

に対する姿勢を連絡ノートの中で知ることが出来、日々の育児の参考になります。フルタイムの仕事と育児の両立に不安があるのでこの一時保育のシステムはありがたいです。

- ・一時保育を利用することが出来て大変嬉しく思っています。欲をいえばもう少し頻繁に使用できればと思っています。集団生活をする機会が増えたこと、親との分離については良い時期に利用できたと思っています。

- ・とてもきめ細かく対応して下さい助かっています。何より子どもをよく見て下さっているのが嬉しいです。送迎時のお話で園の様子がよく分かり、安心してお願いしています。このような制度があつて本当に良かったです。

(仕事を諦めずに すんだこと、育児を助けて下さる場所があること)

- ・私は就労しておりません。月一回程度親子共にとてもいいリフレッシュになっていると思います。

- ・一時保育のせいか、母親同士あいさつを交わすぐらいで終わってしまうのが少し残念。また、一般クラスと分けられているせいか、園の行事はおまけという感じだったので、一般クラスのお友達とも一緒に遊べる環境があると友達も増え嬉しい。

- ・兄弟の病院での付き添いの為に利用しているが、病院の面会時間が午後2時からと遅いため、保育時間に(一時保育でも)延長保育があると助かる。(状態によってはすんなりと帰れないときがあるので)

- ・現在一時保育で週一回利用させて頂いており、こういう制度があることにとても感謝しております。子どもも慣れてきて毎週楽しく通わせてもらっています。本来通常保育に通いたいところですが、保留となっており、この制度があることでとても助かっています。主人がアメリカに単身赴任中、私がフルタイムで仕事をしているため普段は母が子どもを見てくれますが、本当はこちらの通常保育に通わせたいです。人数の拡張などの対策を期待しております。

- ・仕事をしていない専業主婦でも周りの助けがないと子育てはとても大変なものになってしまいます。現在は核家族が多く、自分の子は自分がしっかり見ないと・・・と気負い過ぎてしまっているお母さんが多いように思います(私も)。幼稚園へ行くまでの時期で保育園で月に一度でも・・・と考えている方はたくさんいるのではないのでしょうか？私は一時保育を利用してすごく良かったと思っています。

- ・今、一時保育を利用していますが、イベントなどがないので一緒に出来たらいいなあと思います。

- ・一時保育でも延長保育を実施してほしい。また、土日も利用できるようにしてほしい。

ウ. 職員の体制・協力

常勤保育士 1 名と非常勤職員 2 名の体制で実施しています。常勤職員は週 5 日の、平日の 9 時から 17 時 30 分まで。非常勤職員は曜日を決めて交代で 8 時 30 分から 17 時 までの勤務になっています。

長時間保育の希望者があるときは、通常保育のクラスで対応することもあります。

エ. 担当職員（保育士等）の意見

- ・ 母親が誰かと子育てについて話をしたり、また、自分の子どものことを共有してもらいたいという気持ちがあるようだ。送り迎えの少しの時間であるが、ちょっ としたおしゃべりが気持ちを支えているという実感がある。
- ・ リフレッシュで預かるときに、最初はどこで何をしているのか聞いてはいけないような気がしていた。しかし、携帯電話があるにしても緊急の連絡の際、母親の状況がわからない不都合があったりしたので聞くようにした。最初は、買い物やスポーツなどのレジャーに属するものの時はお互いに話にくい雰囲気だったが、最近ではお互いにオープンな雰囲気になり、何をしているか分からない時より精神的な負担が減った。
- ・ 3 歳以上で非定型の子どもは、保育期間が長くなると一時保育の部屋で少々物足りなくなる。毎年一人ぐらいは週 3 日ではあるが、通常保育へ移行している。スムーズにクラスに入る体制があると良いと思う。

オ. 保護者アンケート（一時保育に関するアンケート）の集計と分析・考察

園独自でアンケートを作成し、集計は「子育てに関するアンケート」とともに別途巻末にまとめました。

一時保育を利用している保護者を対象に行いました。アンケートから一時的にでも保育所を利用することが親にとってどんなことであるのか、保育所の存在がどういったものなのかを見ていきたいと思います。

<問 1> 一時保育を利用している理由は

きらら保育園での利用者の多くは非定型です。リフレッシュ、緊急の場合も受け入れていますが、ほとんどの場合が予約でいっぱいの状況です。受け入れたくても受け入れられないことがあります。登録者数は増えても、一日当たりの定員を増やすことができないので、希望者すべての人に利用して頂けるといったものではありません。近隣に一時保育を行っている保育所が少ないため集中してしまうことも考えられます。

<問 2> 利用し始めてからの期間

6 割程の人が一年未満です。これは幼稚園に入るまでの期間であったり、待機児童だったものが次年度に保育所に入園できたりすることからのようです。

<問3> どのように一時保育を知りましたか

約4割の人が役所と答えています。やはり、様々な情報の発信地として役所が機能していることが感じられます。また、口コミで知ってと言う人も約3割ありました。

きらら保育園では当初から積極的な宣伝はしておらず、園の掲示板にポスターを張っておく程度のものでしたが、口コミで広がり希望者が増えてきました。保育所を常に利用している・していないに関わらず、誰でものぞける・利用できる垣根の低い保育所を目指し、育児情報の発信基地として地域に密着していかなければならないと感じています。

<問4> どのような理由できらら保育園を選びましたか

やはり半数の人が近いという理由で選んでいます。次に3割の人が保育方針で選んでいます。ここからは、ただ単に子どもを預かってほしいというだけではなく、保育内容に重点を置き、保育園によりよいものを望んでいることが分かります。

<問5> 一時保育を利用しているときはどのようなことをしていますか

半数の人が仕事と答えています。一度は専業主婦として家庭に入っても、いずれは社会に出て仕事復帰をしたいという人が多いようです。中には、家庭という密室から抜けだし、仕事をすることによってリフレッシュしたいという人もいます。

次に多かったのが買い物です。ここからは、家庭で子育てしている母親の辛そうな声を感じられました。買い物なんて・・・と思われるかも知れません。しかし、そんな当たり前のことでさえスムーズにできない辛さは、彼女たちにしか分かりません。

一時的にでも子ども・家庭から離れ、自分の時間を持つことでリフレッシュしたいという思いを感じられました。

<問6> 利用する以前、育児に困った時どのようにしていましたか

ここで注目したいのは3割近くの人が育児書や育児雑誌から情報を得ているということです。また、インターネットなどの情報機器の発達により、必要な情報を身近に得ることもできるようになりました。しかし、最近では情報が氾濫しすぎ、何が自分に必要な情報なのかを判断するのがかえって困難になっているのではないのでしょうか。誰もが情報に踊らされることのないような力を持っているとは限りません。

育児の悩み、喜びを共有することのできる他者の存在の必要性を改めて感じました。

<問7> 利用する以前は保育所に対してどのような思い・考えでしたか

一度利用してみたい・子どもにとってよい環境だと思っていながらも“専

業主婦”というくくりが、利用する邪魔をしているのではないかと感じました。専業主婦だから、子どもを預けるなんて・・・という思いが根付いているからではないでしょうか。これからは保育所という存在が、子育てをする全ての人への施設であるということを多くの人に知って欲しいと思います。

＜問8＞ 利用し始めてから保育所に対してどのような思い・考えですか

ここで注目したいのは、一時保育を利用したことにより、育児への気持ちの負担が軽減した・子どもへの接し方が変わったという人が4割以上いることです。保育所を利用することによって、保育の専門家である保育士との関係ができます。その保育士の存在が育児を共有できるパートナー・心のよりどころになり、家庭で育児をしている母親の助けとなっているのではないのでしょうか。また、自分の子どもを第三者が見ることによって、新たな視点が生まれたり、子どもの新たな表情に気付かされたりするようです。

カ. 研究結果のまとめ・今後の課題と展望

現在の横浜市での一時保育は待機児童対策となっている要素も多いようです。特に、パートや非常勤の就労では普通保育に入ることは、まず無理な状態があります。市では現在驚異的に保育所の数を増やしていますので、いずれ待機児童は減少していくのでしょう。この普通保育への入所問題が落ち着いてから、本来の一時保育の姿が見えてくるのではと思います。

現在は一時保育の実施園がまだ少ないということもありますが、横浜市では公立保育園での一時保育も始まろうとしています。また、新設園ではほとんどの園で一時保育を行なうことが要請されていますので、実施園が増えてくれば、緊急、リフレッシュの人も利用しやすくなっていくでしょう。また、年度途中では非定型利用に入れなかった状態でお断りしている人たちも利用できるような気がします。

一時保育というと、困ったときに保護者の都合で気軽に預けられるものだと思っている人も多いようです。しかし、前述したように、現在は急にというときの対応はほとんどできていません。ただ、利用しやすい状況になってくると、子どもの生活リズムとは無関係に、自分の都合だけの時間や気持ちで安易に預ける人も出てくるのではないかと懸念もあります。せつかく出会えた保護者と子どもにとって、支障のない預かり方をしていきたいと思っています。本来の子どもの姿を伝え、保護者の事情を良く聴いた上で、どのような形が良いのかを話し合っていくことが大切だと感じています。

保育園の役割は単なる親の肩代わりではありません。子どもを育てるた

めのパートナーとして一緒に保育、育児を行っていくという意識を双方で持っていきたいものです。

子育てに関するアンケート結果と考察

アンケートは園児保護者と一時保育利用の保護者に行い、111名から回答が得られました。その回答者の年齢は8割近く30代の方で、20代40代の順で95%が女性、母親です。常勤以外の3割の方のうち2割が一時保育だと思われます。延長保育の利用者は多く、全体の5割以上となっています。

延長保育の時間の回答は長時間保育の時間も入っているようですが、本当の利用者は1~2割ぐらいだと思います。

保育園への相談経験は75%の方で、送迎時という方が55%、面接時31%となっています。連絡帳、電話などは1名ずつと意外と少ないようです。

子育てへの社会の関わりについての考えでは福祉制度などを中心に、社会が幅広くサービスを提供すべきであると考える人が多く43%、近所付き合いなどの人間関係が子育てには必要であるという人が30%、次に家族が中心が25%、最低限必要な福祉制度という人は19%です。これを見ていくと、社会が子育てを担っていくという考えが普通になってきたようです。

家族だけの子育てには不安を感じ、近所付き合いの大切さを再認識されているのでしょうか。確かに子育てには、家族が主体となりながら、近隣で助け合い、さらに社会的なサービスが提供されていくのが理想だと思います。

子育てについての考えでは楽しみ、喜びを感じるという回答が65%、次に義務、責任とを感じる回答が35%、生きがいを感じるが続き、負担、苦勞というのは少ないですが、それでも14%ありました。保育園を利用している人のほうが負担感が少ないといわれていますが、子育てのパートナーに出会うことで喜びにつながりやすくなるのでしょうか。

相談相手は、家族、友人、保育所そして育児書という順になっています。

自分だけで解決しなくても相談相手には恵まれているようです。

次に自由記述の意見から考えていきたいと思います。

1. 子育てについて

- ・「子育て」が特別なものっていう感じがします。きっと昔ほどの家庭にも小さい子から・・・いた気がしますが。周りでも夫婦だけの家庭か、独身が多い。子育てがもっと楽に誰でも出来る事になればと思います。
- ・保育園でのお友達と遊びが生活の中で得られるものは大きく、保育士さん達の適切な関わりがあるからだと感じています。私自身としては、家庭保育や、近所の子ども達と接する時間が少ないので、もっと子どもと触れ合う時間がほしく、働き方を考え直したいと最近思っています。

- ・初めての子育てで不安なことが多いので、プロの保育士さんに保育してもらえるのはとても心強いです。しかし、それに甘えることなく親としての責任も十分自覚して子どもと接していかなければならないと常に心がけています。
- ・大変なこともあるけれど、それ以上に楽しく嬉しいことがあると思います。毎日お休みがあるとつまらないけれど、たまにお休みがあると楽しいと一緒にです。子どもは本当にかわいい！こんなにかわいいものだとは持つてみるまでは解りませんでした。これからも自分なりの一生懸命で取り組んでいきたいです。
- ・“子育て”というか子どもにより“親育て”をしてもらっている気がしている。子どもといることで今は楽しく成長していく過程をみて喜びを感じるが。マスコミ報道をみて、嫌なニュースを耳にするたびに親の責任をひしひしと感じる。かわいがるだけではなく時に厳しく叱責する必要もあると痛感する。
- ・親の生活や心情が本当にそのまま反映するのだということを感じる昨今です。個性もあるのでしょうけれども親が思っているよりずっと子どもは周囲をよく見ていて様々に受け止め、喜んだり、不安は感じたりするものようです。我が家も含めてですが大人達がこのことを十分に認識していきたいものです。
- ・子どもを生んで解りました。親だけでは子どもは育たないこと。社会のシステム、人々の人間関係、豊かな環境等々すべてが子どもを育てています。
- ・人生でもっとも素晴らしい経験だと思う。子育てにより様々な喜びを感じ生き甲斐を感じるとともに家族や社会の協力は必要不可欠だと実感している。私にとっては子育て・仕事・家庭がバランスよく調和しているとき、人生の喜びをもっとも感じるからです。
 このように前向きな考えで子育てをしているという意見が多くありました。仕事との両立も保育園との連携の中でバランスが取れているようです。もちろん、大変なことも喜びもありますが、忙しい中でどのように折り合いをつけていくかが大切です。
- ・我が子さえよければ良いという考えではなく、隣の子も一緒に育つという考えだともっと楽になるのでは。子どもも窮屈でなくなると思います。
- ・ほめられることと認められることで子どもは自信を持ち伸びていくのだと思う。一人一人のよいところを認め、愛されている・認められていると実感できることが大切だと思う。
- ・私は地域コミュニケーションだと思います。(小中高校・保育園・幼稚園・町内会・自治会・シニアサークル・子育てサークル等) 色々な形でコミュ

ニケーションをとるとよい。現代社会において、またこの地域において少し欠けていると思う。

- ・現代の社会では難しいのかも知れませんが、子育て中の世代と子育てを終えて余裕のある世代との交流がもっとあれば良いのと思います。

保育園に通っている保護者は、子どもが友達同士で一緒に遊んでいることに付き合うことが特に少ないのですが、土曜日など積極的に公園などで遊ぶ機会があると良いですね。そうすれば、こんな気持ちになるのではないのでしょうか。確かに地域のコミュニケーションは大切。忙しい毎日ですが子どもを中心に考え、積極的に関わっていききたいものです。

世代間の自然な繋がりも近隣であると良いですね。昔は「あそこの家で子どもが生まれた」というと近所の人がみんな見に来たといいます。

そこで、地域デビューです。今はどんな人がどこにいるのかも分からないですから、コーディネーターの役割が必要ですね。

- ・最近子どもにたくさん一人で行うこと（勉強・パソコン・ゲーム etc）がありすぎて、人との関わりがとても貴重な時代だとも思います。あまり子どもを縛らずに自由に育てられたらいいなあと思っています。（子ども同士のケンカも大人がそっと見てあげれば全然 OK）本当にそう思います。あるものを使わない、やりたい欲求を抑える、ということは、ないことを我慢することより難しいです。周りの人も同じように意識していけるといいですね。今後も機会あるごとに、このようなことを伝えていきたいと思っています。
- ・働きながら子育てをするためには、保育時間の延長より勤務時間の短縮が必要である。
- ・子育てはやはり、楽しみ・生き甲斐を感じながらも苦労はある。仕事をフルタイムで持つ母にとってやはり社会も子育て支援など、もっと考えてほしい。第二子を産むことは考えてしまう。
- ・保育園に預けることで触れ合う時間が少なくなるため「これでいいのだろうか・・・」と思う部分と、自宅では味合わせてあげられない体験もでき、私自身外に出ることで育児ストレスから解放される部分とがあります。「子どものことが好きだ」という気持ちで向き合えるので今はこのままの状態がいいのかなと思っています。世間では「子どもを保育園に預けている」というと「子どもが可哀想に」と言われます。実際何度か言われました。この概念は何かならないものですかね……。気に病むことはないのですが煩わしいです。普段、子どもと接するとき疲れやイライラのせいで必要以上に子どもを怒鳴って叱ってしまい、後から失敗したと思うことが最近多く、感情的にならないように子どもを叱ってや

ればよかったと思うことがあります。仕事と子育ての両立は、女性にとって普通のことになりつつあります。しかし、やはり子育てには時間が必要です。子どもは忙しいお母さんに気を回しますから、我慢することが多くなります。そして心の歪みが溜まると、親には分かりにくい場面で爆発したりします。大きくなっても子どもと気持ちが通じ合わなくなることもあります。雇い主としては難しいところですが、子育ての間だけでも短時間の勤務ができるようになる社会が理想だと思います。

- ・ 社会で生きていく中で集団での生活は大切なことだと思う。出産・育児（教育費）にはお金がかかり、今の社会で子どもを多く産み育てることは無理である。少子化といわれるが、産む環境を作ることが大切である。
- ・ 現在能見台のこの地域で保育所として存在するのが2~3カ所しかない状態です。しかし、マンションはまだまだ建てられていてどんどん子どもが増えています。ハード面が追いつかない状態がとても心配です。環境もとても良いところなので、福祉制度を中心としたサービスがもっと提供されることを希望します。保育園入園の優先順位など、どのような基準で決められているのかもっと情報もほしいです。

一人の子どもにお金がかかる時代です。これは少子化のひとつの理由でしょう。そして、保育園も入園できた人とできなかった人の受ける恩恵に大きな差があります。一度入ってしまえば、事情が変わり育児休業や失業中となっても要件があると考えられるので入所継続できます。それを横目に見ながら苦勞している方も少なくありません。確かに、この地区はマンションの増加に比べ保育園の数が少ないのです。社会増への対応は計画的であるべきですが、予想を上回っている現状です。

- ・ 実家と離れて暮らしているため子どもはかわいいなあと思うものの子育てに不安を感じることもよくありました。子どもを育てるのは楽しくもありますが大変なこともたくさんあります。育児について学べる場が時々あると嬉しいと 思っています。
- ・ 一人で育てるのは考えが偏ったりしていけないな・・・と思うことが多々あります（考え込んでしまうと暗くなる一方）。ずっと子どもと接しているとイライラしがちです。そんなときにちょっとした時間でも子どもと離れる時間があると冷静に物事を考えられるようになったり子どもにとっても、イライラしている母親と少し距離を置いて両方にいいと思います。主人は普段は仕事が忙しいのですが、お休みの時などは子どもを遊びに連れて行ってくれたり、いろいろ理解してくれます。子育ては周りの理解や協力がとても大切だなあと 思います。

やはり子育ては母親だけではできません。父親はもちろん、実家や保

育園の存在 がストレスを和らげてくれるでしょう。

- ・ 保育園側は「親は～」 「子育ては～」 「こうあるべき」ということを伝えるより「それでいいんだよ」「大丈夫だよ」と親を大きく暖かく包み込んでほしい。それこそが親にとっての活力になるように思う。確かに子育ては思うようにならないことが多いのです。わかっている現実もなかなかそうならない時に母親の気持ちを理解し認めてあげることが大切でしょう。ただ、このごろ難しいと思うのは、本来こうあるべきだというのが初めから分からない人が増えてきていることです。本来の姿を伝えながら、それぞれの事情を受け入れ、サポートしていくという高い援助技術が保育に求められるようになったことを実感します。

2. 保育園について（通常の保育について）

- ・ いつも暖かく親子共々支えて頂いて有り難いです。保育園での子どもの接し方は、とても家庭保育に役立っています。
- ・ 仕事・家事・育児の両立が出来ているのは本当に保育園のおかげです。子どもが保育園で得てくるものは価値ある物ばかり。もっと一緒にいてあげたい気持ちはあるけれど、保育園の効果と子どものたくましさを信じて濃い愛情をたくさん与えてあげたいと思います。
- ・ いつも本当によくみてもらっていると感謝しています。私が普段見られないところも教えて頂いているので子どもについて再発見したりします。
- ・ この前一日保育士を体験し、みんな一斉に同じ事をさせるのではなく個別性を尊重しているのがわかり、とても素敵な園だと思いました。また、家庭でも喜んでお手伝いをしてくれ、色々なことを器用に出来ると思いました。保育園での生活が、子どもにも保護者にも良い環境になるようにと努力しています。一日保育士体験や個人面接などお互いの距離が縮まります。何か問題があるときも、お話をすると気持ちが共有できたということで解決できることが多くあります。やはり、保育園、家庭との連携は大切です。
- ・ 若い先生が多く、ベテランが少ない。入れ替わりも多く先生の待遇がよくないのであれば改善が必要と思う。

公立と比べると、民間の保育園はどうしてもこのような傾向があります。

私たちの保育園も5年目を迎え、やっと職員同士がお互いに理解し合い長く勤める人も増えてきました。運営する立場としては、職員皆がやり甲斐と楽しさを感じられる職場づくりに努めなければなりませんね。

- ・ 店勤めのため、土日に仕事、平日に休み、遅番（昼～夜出勤）もあり、一週間の内勤務時間と保育時間が一致するのが二日しかなく、通常の保育時間に合わせて登園すること自体が負担に感じることもある。仕事が休みの

日に園を休ませてはとの意見もあったが曜日でカリキュラムが決まっているのでそれも出来なかった。確かに勤務時間と子どもの保育時間にずれがある場合は苦勞が多いことでしょう。休日保育もセンター方式で始まりましたが、子どもにとっては週のうち休みがないというのは厳しいことでしょう。幼児になるとカリキュラムもありますが、早い時間のお迎えや日を選んでお休みするなど工夫もできると思いますので、ぜひ相談していきたいと思います。